

令和6年産サツマイモ基腐病の防除暦

持ち込まない（健全苗の確保）、増やさない（発病株の除去、適期防除）、残さない（残渣の分解促進）を徹底しましょう！

月	育苗	本ほ																				
1月	<h3>育苗・苗消毒</h3> <h4>育苗管理と採苗</h4> <ul style="list-style-type: none"> 発病株を見つけたら速やかに種いもごと除去。 地際部から5cm以上離して苗切り。 採苗時のハサミはこまめに消毒。 苗床では靴の履き替えまたは靴底消毒。 <h4>苗消毒</h4>  <ul style="list-style-type: none"> 定植前には必ず苗消毒を！ 薬剤はベンレート水和剤またはベンレートT水和剤20を使用。 <p>苗の上部まで浸漬 調整後の薬剤は、日光や汚れなどで急速に分解するため、1日で使い切り</p> 	<h3>ほ場準備</h3> <h4>排水対策</h4> <p>ほ場に水が溜まらないように枕畝は途中で切り、明きよはほ場外につなげるなど排水対策を徹底する。</p>  <h4>土壌消毒</h4> <p>適度な土壌水分と地温を確保し、各薬剤の使用方に従い土壌消毒を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>農薬名</th> <th>成分</th> <th>使用時期</th> <th>使用方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バスアミド微粒剤</td> <td>ダズメット</td> <td>植付け 21日前</td> <td>本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和</td> </tr> <tr> <td>フロンスайдSC</td> <td>7ルアジナム</td> <td>植付け前</td> <td>全面散布土壌混和または全面土壌散布</td> </tr> <tr> <td>フロンスайд粉剤</td> <td>7ルアジナム</td> <td>植付け前</td> <td>全面土壌混和</td> </tr> <tr> <td>プリントフロアブル25</td> <td>トリプロキシピロリン</td> <td>植付け前</td> <td>全面散布土壌混和</td> </tr> </tbody> </table>	農薬名	成分	使用時期	使用方法	バスアミド微粒剤	ダズメット	植付け 21日前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和	フロンスайдSC	7ルアジナム	植付け前	全面散布土壌混和または全面土壌散布	フロンスайд粉剤	7ルアジナム	植付け前	全面土壌混和	プリントフロアブル25	トリプロキシピロリン	植付け前	全面散布土壌混和
農薬名	成分	使用時期	使用方法																			
バスアミド微粒剤	ダズメット	植付け 21日前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和																			
フロンスайдSC	7ルアジナム	植付け前	全面散布土壌混和または全面土壌散布																			
フロンスайд粉剤	7ルアジナム	植付け前	全面土壌混和																			
プリントフロアブル25	トリプロキシピロリン	植付け前	全面散布土壌混和																			
2月																						
3月																						
4月																						
5月	<h3>片付け・残渣処理</h3> <ul style="list-style-type: none"> 育苗が終了したら、できる限り残渣を持ち出す。 地温が高い時期に複数回耕耘し、堆肥や分解資材を活用し、残渣分解を促す。 トラクターの走行は低速で、ロータリーは高速回転とし、残渣を砕くことを意識する。 	<h3>植付け後の管理</h3> <h4>発病株の抜取り</h4> <p>ほ場を観察して、早期発見に努め、萎れや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発病株を抜取り、薬剤散布を前倒しで開始する。</p> <h4>薬剤散布</h4> <p>薬剤は株元にかかるように丁寧に散布する。以下に防除体系の例を示す。</p>  <p>4回目以降は、発生状況に応じて、薬剤をローテーション散布。特に長雨や台風等の際は必ず薬剤を散布する。</p>																				
6月	持ち込まない対策																					
7月																						
8月	<h3>苗床の土壌消毒</h3> <ul style="list-style-type: none"> 土壌消毒は、地温15℃以上かつ適度な土壌水分を確保。 土壌消毒剤処理後はビニル等で被覆。  <p>適正な土壌水分（固まりが少し崩れる程度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>土壌消毒剤</th> <th>病害名</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤</td> <td>基腐病</td> <td>30kg/10a</td> </tr> </tbody> </table>	土壌消毒剤	病害名	使用量	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤	基腐病	30kg/10a	<h3>増やさない対策</h3>														
土壌消毒剤	病害名	使用量																				
バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤	基腐病	30kg/10a																				
9月	<h3>種いもの消毒</h3> <ul style="list-style-type: none"> 健全ほ場から採取した種いもを使用。 貯蔵前に以下の手順で種いもの消毒を実施。  <p>収穫 → 水洗 → なり首・尾部除去 → 選別 → 種芋消毒 → 貯蔵 → 選別 → 苗床へ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種芋消毒剤</th> <th>病害虫名</th> <th>濃度</th> <th>使用方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トップジンM水和剤</td> <td>基腐病</td> <td>200～500倍</td> <td>30分間採苗用種いも浸漬</td> </tr> </tbody> </table>	種芋消毒剤	病害虫名	濃度	使用方法	トップジンM水和剤	基腐病	200～500倍	30分間採苗用種いも浸漬	<h3>残さない対策</h3> <h4>早期収穫</h4> <p>在ほ期間が長いほど発病が進むので、発病が見られたほ場ではできる限り早期に収穫する。</p> <h4>残渣処理</h4> <ul style="list-style-type: none"> 罹病残渣は翌年の伝染源になるため、できる限りほ場外へ持ち出す。 残渣分解を促すため、堆肥や分解資材を施用し、月に1～2回程度、浅めに耕うんする。 残渣は新鮮なほど分解が進みやすく、分解には地温(15℃以上)と土壌水分が必要なので、収穫後、速やかに耕耘する。 被害が激しかったほ場では、抵抗性のある品種を導入するか、品目転換を行う。 												
種芋消毒剤	病害虫名	濃度	使用方法																			
トップジンM水和剤	基腐病	200～500倍	30分間採苗用種いも浸漬																			
10月																						
11月																						
12月																						